

二次評価の進捗状況

【共通指摘事項】

- 「独立行政法人評価分科会における平成 26 年度の取組について（26.5.29）」に基づき、以下の視点から評価が行われているか事実確認を含め 調査中。

（視点）

- ① 以下について明らかにした上で評価を行っているか。
 - 業務等への取組状況と実績
 - 中期目標等に照らした業務等の達成状況や進捗状況
 - 目標未達成の業務等について、その要因と改善方策等
 - 業務等への取組により得られた成果・効果（アウトカム）
 - ② 過去の指摘（勧告の方向性、年度評価意見、会計検査院指摘等）を踏まえた取組について明らかにした上で評価を行っているか。
 - ③ 電子化等による業務の効率化に関する取組状況を明らかにした上で評価を行っているか。
 - ④ 過去の指摘を踏まえた内部統制の充実・強化に係る取組について適切に評価を行っているか。
 - ⑤ 特に、最近の独立行政法人をめぐる動き等を踏まえ、ガバナンス機能の発揮、契約事務の適正化等に係る評価について留意することとする。
 - ⑥ 保有資産の保有の妥当性について、政府方針、会計検査院の指摘等を踏まえた評価を行っているか。
- 文章のイメージは、
 - ① 府省評価委員会の二次評価は今年度が最後となることから、これまでの活動について総括すべき旨記載。
 - ② 当該総括については、来年度から二次評価を担う 主務大臣の評価の質の向上 等に活用する旨記載。
 - ③ 今後の評価に当たっては、「独立行政法人の目標の策定に関

する指針」及び「独立行政法人の評価に関する指針」の考え方に留意する旨記載。

【個別指摘事項】

- 現時点で以下の内容の指摘について、府省と事実確認等を実施中。
 - ① 中期計画を大幅に上回ったことを根拠にS評価としているが、当該判断の理由が不明確
 - ② 昨年度A評価であった業務について、今年度S評価とした根拠が不明確
 - ③ 数値目標が示された業務が未達成であるにもかかわらず、その他の要因を加味しA評価としている例
 - ④ 運営費交付金債務残高比率が高く、一部評価委員から指摘を受けているにもかかわらず、A評価としている例
 - ⑤ 評価対象年度ではない実績予定をもとに、S評価としている例
 - ⑥ 債権管理業務について、リスク管理債権比率を大変優れているとしてS評価となっているが、民間との比較において疑問である例

【今後の予定】

- ① 府省と事実確認等を進め、文章案を立案。(11月上旬)
- ② 各ワーキングにて共通事項文章案と、個別事項文章案(担当ワーキング分)を議論。(11月中旬に複数回)
- ③ 最終文章案を府省に提示。(11月下旬)
- ④ 政独委にて「勧告の方向性」と併せて決定。(11月下旬～12月上旬)

以上